

新春座談会

羽ばたけ、世界へ 開け、未来を

「研究や開発は、趣味の延長、楽しいからです」



「この人との出会いが、僕の人生を変えました」



尊敬する人、目標にする人

市長 尊敬する人や目標にする人はいいますか。

今井さん 尊敬する人は、400メートルハードルの前日本記録保持者である、山崎一彦さんです。

僕が中学2年生の時、県の事業で、高校生対象の合宿が行われ、特別に参加させていただきました。その合宿のコーチが山崎さんでした。それ以来、アドバイスをしていただいています。

この人にあこがれて、「高校になつたら400メートルハードルをやろう」と決めました。

今日、色紙を持ってきました。この色紙に「一期一会」と書いてありますが、この偶然の出会いが、僕の中でとても大きかったです。

市長 最初の印象はどうでしたか。
今井さん 教えてもらう時に、「(レベルが)全然違うな」と思いました。アドバイスしていただくと、走りの感覚も良くなっていって、タイムも伸びていき、全国で入賞できるようになりました。

昨年、全国大会で好成績を収められたのも、顧問の先生や仲間たち、そして山崎さんのおかげです。現在、福岡大学でコーチをしてみえるので、山崎さんに見ていただくために、そこへ進学する予定です。

です。

星月さん コンピューターの世界では、目標にする人はいません。

「昔はすごいプログラマーがいた」ということを聞きますが、目標というものではないです。

研究や開発は、趣味の延長、楽しいからやっているという感覚です。そしたらいつの間にか成果が出たという感じなので、誰かを目標にして頑張っているということではないです。

市長 進路は決まっているのですか。

星月さん 筑波大学のACC(アドミッションセンター)入試という今まで行ってきた研究などの成果を披露して、認めてもらうという試験で、内定を頂いています。

筑波大学は、技術関係の育成に力を入れているところが魅力です。ここであつたら、研究室の先輩などに、いろいろ聞くことができ、もっといろいろな研究ができると期待しています。

